

小澤征爾さん死去

最高の音楽ありがとう

多くの思い出出 市民悲嘆

世界的指揮者・小澤征爾さんの訃報を受け、小澤さんを総監督に松本市で30年以上にわたって開催されてきた国際音楽祭セイジ・オザワ・松本フェスティバル(OMF、前身・SKF)に関わり続けた松本市民ら松本地域の関係者は、一様に言葉を失った。

(取材班) 【1面参照】

小澤さんの指揮で音うと感謝してもし切れ、楽祭のオペラや合唱に「ない」と涙を流した。出演し、SKO(サイ トウ・キネン・オーケストラ)との交友も深めた松本市大手4のそば店主・佐々木文宣さん(61)は「音楽レベルの高さを生で経験させてもらい、人生が変わった。得られた心の充足感、生活の豊かさを思うと涙を流した。協会

長を退任する際「僕も死ぬまで(音楽祭をやるから君も続けるべきだ」と何度も電話をもらった思い出を振り返り、悲嘆した。

前副市長でOMF実行委員長を務めた坪田明男さん(82)は、表情にまで曲調がにじみ出ている小澤さんの指揮や、舞台を降りると

スタッフ一人一人に声を掛けていた姿を回想。「世界一流の指揮者でありながらおごらず、日本人の持つ気遣いや人を包み込むような優しさ、温かさがあった。魅力的な人だった。大好きだった」と別知事は「長野県に最高水準の音楽芸術を響かせるとともに(SKF、OMFを)世界的な音楽祭に育てていただいた」とそれぞれコメントを発表した。



地元(松本市)の味で出演者をもてなす音楽祭恒例の「そばパーティー」で満面の笑みを見せる小澤さん(平成20年8月20日)



松本城を背景に開かれたSKF合同演奏会で、松本地域の子供たちの吹奏楽を指揮する小澤さん(平成13年9月2日)



音楽祭の最終公演を終え、運営を支えた市民ボランティアをねぎらう小澤さん(平成22年9月9日)

上の写真の左端が青山君

上の写真の左端が青山君